令和４年度学内版GP 申請書

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 取組名称 |  | 該当項目（該当しないものを削除） | 　A　 B |
| 取組学部等 |  | 取組開始時期 | 　令和４年　　　　月 |
| 連携する他学部・機関がある場合は記入 |  |
| 取組担当者名（複数人申請の場合は，取組責任者名の前に「※」を記入） | 所属・職名 | 連絡先（内線電話，e-mail） |
|  |  |  |
| 取組内容（※青字・赤字は削除して記入してください）　以下の内容を含む記述をお願いします。赤字部分はヒアリング審査実施要領に示した審査基準，青字部分は審査員が審査する観点になりますので，これらに沿って記載してください。（※形式的な審査基準：「取組の概略図」も含めて４頁以内に収まっていること）（１）　募集するプログラムの条件を満たす取組であることの説明　（※対象とする学生の範囲を明確にしてください。）審査基準その１：募集するプログラムの条件を満たす取組である。学位授与の方針（DP）の達成に重要な寄与をする授業における取組であり，次のいずれかに該当する教育実践であることA　１年生対象の必修もしくは選択必修授業で組織的な学習支援を組み込んだ取組B　２年生以上対象の必修もしくは選択必修授業で質を伴う授業外学習時間をデザインした取組【観点】A：別紙「組織的学習支援における一般的要素」を満たすことを志向していることが見て取れるか。B：その授業が分担するDPの一部が授業の達成目標であり，その達成目標に着実にたどり着けるよう授業の一回一回がデザインされており，その一回一回の授業の教育成果を高めるための予習・復習も授業の一部として構想されているか。（２）　取組の目的をどうやって達成するのか審査基準その２：取組の目的をどうやって達成するのかが明確に確認できる。【観点】15回の授業内容が授業の達成目標に着実にたどり着くよう適切にデザインされているか。（３）　学修成果を測定する仕組み　審査基準その３：成果の測定方法が明確である【観点】授業達成目標への到達度を測る方法＝どのように成績をつけるのか，が適切であるかどうか。（４）　本取組を実施する体制プログラムの実施にあたり，組織的な体制が構築されている【観点】プログラムの実施にあたり，関係する授業について，受講前の学生の状態，授業達成目標が適切であるかどうか，履修後の教育成果がどうであるか，について，組織的に検討がなされる体制が構築されているか。 |
| 取組の概略図申請する取組の概念図（目的と，その達成手段のプロセスについて，全体像と特徴がわかるように図示してください。） |